

I 総括研究報告

令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業 統括研究報告書

女性の健康課題、特に月経困難症・月経前症候群の課題の解決に向けた 方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための 研究

研究代表者 甲賀かをり（千葉大学大学院医学研究院産婦人科）

研究要旨

令和6年開始予定の次期国民健康づくり運動プラン（以下「次期プラン」）では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」について、項目立てがなされた。また月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生学的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

そこで、本研究では、女性のやせおよび飲酒についてそれぞれエビデンスを構築すること、さらに月経困難症等月経関連疾患の基礎資料を作成し、本疾患関連のあらたな健康課題の指標・目標策定の根拠となるようなエビデンスを創出すること、を、目的としている。

研究初年度は、女性の「やせ」の心理社会的要因について、ならびに学校教育の実態の調査を実施し、また、女性の「やせ」がもたらす周産期の転帰や、長期的な骨折リスクへの影響について分析する研究計画を立案した。

飲酒については、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

来年度も引き続き情報収集及び解析を継続し、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築する。

A. 研究目的

厚生労働省が生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善等に関する課題について、国民健康づくり対策として開始した「21世紀における国民健康づくり運動」の、令和6年開始予定の次期国民健康づくり運動プラン（以下「次期プラン」）では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」について、項目立てがなされた。しかし、それらがもたらす女性の身体への負の影響、ならびに、それらが起きている背景についてはエビデンスが少なく、課題解決に向けた具体的提言をすることができていない。また月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生学的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

そこで、本研究では、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築すること目的としている。

B. 研究方法

①日本人女性における妊娠前体重・BMIが周産期の転帰に及ぼす影響に関するシステマティックレビュー&メタ解析（分担：小林しのぶ）

対象を日本人の単胎妊娠の女性、曝露を妊娠前BMIがやせ（BMI < 18.5）、メインアウツカムを低出生体重児、SGA（small for gestational age）、早産児と設定し、妊娠前の体重が周産期の転帰に及ぼす影響について、システマティックレビュー・メタ解析の手法を用いて検討することとした。6つの

データベースを用い、網羅的に文献検索を実施した。

②日本人女性における、BMIが無月経リスクに与える影響、および、女性の飲酒に係る要因についての疫学研究（分担：森崎菜穂、瀧本秀美、池原賢代、中里道子）

BMIおよび月経ログが含まれている既存調査データの取得、および分析の開始（調査参加者の月経ログの収集状況の把握、BMI分布の把握）を行った。

また、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

③女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究（分担：石塚一枝）

既存コホートを使用して20歳時の体格（やせ・肥満）による、生涯にわたる骨折リスクへの影響（身体部位別）の定量的な分析を行う研究計画の立案を行った。

また、孤独・SNSの使用状況を含む社会的状況がやせに関連する問題（ボディイメージなど）に与える影響についての定量的な分析を行うため、十代の児童に対して、孤独・SNSの使用状況や体格に関する調査を実施した。

④女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究（分担：小川真里子、中里道子）

①日本国内で使用されている中学校および高等学校の保健体育の教科書を調査し、やせと健康リスクに関する記載を確認した。

②やせに関する教育について、国内外の文献レビューを行い、国内での試みや、国外で

の教育の状況について調査した。

⑤子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー(分担:大須賀穰、平池修、谷口文紀、浦田陽子、甲賀かをり) 症状出現から子宮内膜症と診断されるまでの時間について、PubMed を用いてハンド・リサーチで網羅的に文献を検索した。

⑥日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査(分担:甲賀かをり、石川博士、浦田陽子) マクロミル社を利用して、一般女性を対象とした月経に関する Web アンケート調査を行った。対象は18-49歳の女性とした。

C. 研究結果

①日本人女性における妊娠前体重・BMI が周産期の転帰に及ぼす影響に関するシステムティックレビュー&メタ解析(分担:小林しのぶ)

文献検索の結果、MEDLINE から1054件、EMBASE から1428件、CINAHL から340件、PsycINFOから154件、Cochrane Library (Central)から77件、医学中央雑誌から1950件、合計5003件がヒットし、重複論文を除外し3960件がスクリーニング対象文献となった。

②日本人女性における、BMI が無月経リスクに与える影響、および、女性の飲酒に関する要因についての疫学研究(分担:森崎菜穂)

BMI および月経ログが含まれている既存調査データの取得、および分析の開始(調査参加者の月経ログの収集状況の把握、BMI 分布の把握)を行った。

また、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加

で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

③女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究(分担:石塚一枝)

JPHC-NEXT コホートのデータを用いた、20歳時の体格(やせ・肥満)による、生涯にわたる骨折リスクへの影響(身体部位別)の定量的な分析を行う研究計画の立案を行った。

また、孤独・SNSの使用状況を含む社会的状況がやせに関連する問題(ボディイメージなど)に与える影響についての定量的な分析を行うため、十代の児童に対して、孤独・SNSの使用状況や体格に関する研究を実施し、こども1,928名、保護者1,991名から回答を得た。

④女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究(分担:小川真里子、中里道子) ①保健体育教科書における記載については、適正体重についての記載はすべての教科書でなされていたが、“女性のやせ”に関する内容にはばらつきがみられた。②やせ、教育、リスクをキーワードとして文献検索を行った結果では、MEDLINE から75件、医学中央雑誌から57件が得られた。1次スクリーニングを行い、37件を検討対象とした。

⑤子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー(分担:大須賀穰、平池修、谷口文紀、浦田陽子、甲賀かをり) 重複論文を除外し29編の論文が抽出された。初発症状から診断(手術による確定診断)までに要した時間は、国により様々であり、5-11年と幅があった。症状出現が若年

であるほど、診断までに要する時間は長くなることが複数報告されていた。

⑥日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査(分担:甲賀かをり、石川博士、浦田陽子) 一次調査を40,000人の女性を対象にアンケート調査を行った。そのうち月経困難症あるいは月経前緊張症があり、病院を通院していない人(n=5356)を対象に二次調査を行った。約75%の女性が何らかの月経痛を自覚していた。月経痛のある女性のうち66%は医療機関受診したことがなかった。68%の女性が月経前緊張症を自覚しており、症状のある67%が医療機関受診をしたことがなかった。通院していない女性は受診に必要な支援として、経済的支援38%、病院についての情報提供23-26%、受診するための休暇制度18-19%、受診するための有給制度16-17%を挙げていた。

D. 考察

研究初年度は、女性の「やせ」の心理社会的要因についての調査を実施し、また、女性

の「やせ」がもたらす周産期の転帰や、長期的な骨折リスクへの影響について分析する研究計画を立案した。学校教育の状況は教育機関による差異が大きい可能性が示唆された。

飲酒については、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

月経については、医療システム、子宮内膜症や月経困難症に対する治療方針、文化は国ごとに異なり、日本での方策を考えるためには、日本独自の基礎資料が必要であることが明らかとなり、次年度の調査案の参考とした。

E. 結論

来年度も引き続き情報収集及び解析を継続し、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築する。